

つな がり



独立行政法人国立病院機構

東近江総合医療センター

〒527-8505 滋賀県東近江市五智町255番地

TEL 0748-22-3030 FAX 0748-23-3383

ホームページ <http://www.shiga-hosp.jp>

地域連携ニュース T・S・U・N・A・G・A・R・I 2017.09



- 臨床談話会
- 診療科紹介 呼吸器外科
- 新任医師紹介
- 『地域包括ケア病棟』のご案内
- 放射線科からのお知らせ
- 医療機関のご紹介
- 編集後記

Vol.
27

8月24日に八日市ロイヤルホテルにおいて
33回目となる東近江総合医療センター臨床談話会を開催しました。



カンピロバクター感染症の臨床像について
消化器内科 ○茶谷元晴、水田寛郎、神田暁博、
伊藤明彦、五月女隆男、辻川知之
食物アレルギーの一般的対応と、当院小児科での診療について
小児科 ○星野絵美、田中克典、奥野計寿人
肺癌治療の現状
外科 ○赤堀浩也、太田裕之、小島正継、
長谷川正人、目片英治
小児骨折の診断・治療
整形外科 ○本原功二郎、菊地克久

SYNAPSE VINCENTによる仮想気管支鏡ナビゲーションの活用
呼吸器外科 ○苗村佑樹、大内政嗣、尾崎良智、
井上修平
当院における耳鼻科診療について
耳鼻咽喉科 ○星参
画像検査を診療に役立てるために知っておきたいこと
放射線科 ○井上明星
当院における周術期口腔機能管理について
歯科口腔外科 ○弘部悠、堤泰彦

東近江総合医療センター 呼吸器外科紹介

呼 吸器外科は 2000 年 12 月に当院が国立滋賀病院に改組されたのと同時に、現院長である井上が初代医長として赴任し、新設されました。

近隣医療機関のみなさまのご協力で、順調に入院患者数は増加し、数年前地域医療再編で再建途上にあった当院においては中核診療科としての重責を担って参りました。

現在、外来は井上修平（院長）が火・木、尾崎良智（外科診療部長）が月・水、大内政嗣（呼吸器外科・救急科医長）が月・金、苗村佑樹医師が水・金、また非常勤として滋賀医大から片岡瑛子医師が火・木を担当しております。昨年（2016 年）の入院患者数は 566 人で手術件数は 174 件でした。診療の中心は日本人の癌死因のトップを占める肺癌です。特に当科は呼吸器外科でありながら、地域のニーズに応えるべく、開設当初から肺癌に対する診断、治療を一貫として行ってきました。

手術は 2012 年より完全鏡視下による胸腔鏡下肺葉切除術を導入。現在ではほぼ全ての肺癌根治手術は完全鏡視下で行われており、より低侵襲で安全な治療を提供しております。さらに診断においても超音波気管支鏡（EBUS）に加え、仮想気管支鏡画像によるナビゲーションシステムの導入によりさらなる診断率の向上に努めております。

また近年、肺癌の薬物療法は目まぐるしく進歩し、進行肺癌患者さんの予後は数年前と比べても明らかに改善傾向にあります。

全国的な新規肺癌治療の探索的な取り組みである LC-SCRUM-JAPAN への参加など、常に最新の診断・治療を地域のみなさまに提供できることを目指し、東近江医療圏において今後も呼吸器の専門科として貢献したいと考えております。



新たに着任した医師の紹介



産婦人科医師 中多 真理

2017年7月に東近江総合医療センターの4人目の産婦人科医として赴任しました、中多と申します。

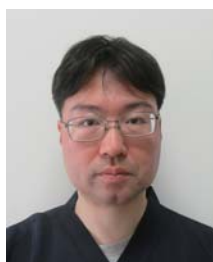
滋賀医科大学を卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院、近江八幡総合医療センター、市立長浜病院と、滋賀県下の地域の中核病院で産婦人科常勤医として勤務してきました。

お産と手術に興味があり、卒後はほとんど迷うことなく産婦人科を選びましたが、十数年勤めていると幾度となく危機的な場面に遭遇しました。子癇発作、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤、産科 DIC・・・。また、多忙のため心折れそうになる時もありました。それでも今もやはり産婦人科が好きで、選んで良かったと思えるのは、一人一人の患者様との出会いや、今まで指導し見守っていただいた恩師、支えあってきた同僚やスタッフとの出会いがあってこそと思っています。

当科は正常分娩や帝王切開のみならず、適応により帝王切開術後経膈分娩や双胎経膈分娩、経産婦の骨盤位分娩まで取り扱っています。

また婦人科疾患に関しても、不妊症から更年期障害、良性から悪性腫瘍、腹腔鏡手術から膣式手術、開腹手術まで症例に合わせて多岐に渡る治療が可能な施設です。これら幅広い診療実績は、これまで当院に勤務されてきた産婦人科医の努力と熱意の賜物と考えずにはられません。

これから東近江総合医療センターの産婦人科医として、私自身の妊娠・出産・育児経験も役立てながら、患者様と真摯に向き合い、よりよい医療を提供できるよう努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



皮膚科医師 高山 悟

8 月より皮膚科に赴任致しました高山悟と申します。

平成 15 年に神戸大学を卒業後、滋賀医大及び関連病院で勤務しておりました。

皮膚科診療を通じて当地域の医療に貢献できるよう尽力して参ります所存です。

今後とも御指導御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



地域包括ケア病棟のご案内

当院では、急性期治療後の在宅復帰に向けた医療や支援、リハビリ等を行うため、平成29年7月より『地域包括ケア病棟』をオープンしました。

地域包括ケア病棟とは？

病棟内にADL室
を設置しました

安心して自宅退院できるようにサポートします

「地域包括ケア病棟」は、急性期の治療が終了し病状が安定したものの、すぐにご自宅や施設等での療養に移行することに不安がある患者さんに対して、在宅復帰に向けて、医療管理、診療、看護、リハビリを行うことを目的とした病棟です。

急性期病棟では、病状が安定すると早期にご退院いただく必要がありますが、地域包括ケア病棟では、患者さんが安心してスムーズに在宅に復帰していただけるよう、医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等が協力して、在宅復帰に向けたサポートをさせていただきます。

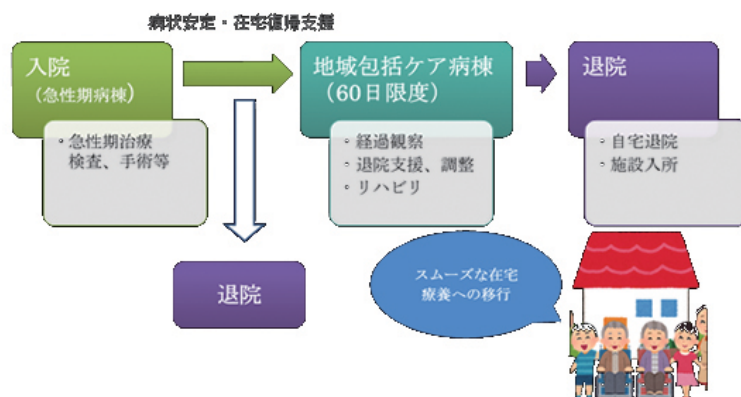
対象となる患者さんとは？

在宅あるいは介護施設等に復帰予定の方であれば対象となりますが、主に次のような患者さんが対象になります。

- ・入院治療により症状が改善したが、もう少し経過観察が必要な方
- ・入院治療により症状が安定し、在宅復帰に向けてリハビリの延長が必要な方
- ・在宅での生活に向けて調整、準備が必要な方

入院中のケアの内容

- ・自宅退院に向けて患者さま・ご家族さまの意思を尊重した意思決定支援
- ・セルフケアの能力の向上への支援
- ・ADLを維持向上させるリハビリテーションや嚥下機能訓練
- ・在宅医さまや訪問看護ステーションなどと連携した退院支援



放射線科からのお知らせ

一般撮影、CT 撮影(単純、造影)に関して、予約なしでの撮影が可能となりました。

平日 8:30 ~ 16:00 の時間内でしたらいつでもお受けいたします。

地域連携室を通して予約を取っていただく必要はありません。

造影の場合は検査前4時間絶食、腎機能のチェックをお願い致します。(腎機能の結果は持参ください)
腎機能の検査がされていない場合は当院で採血をさせていただきますが、検査結果が出るまで、30~40分お待ちいただきます。

メトグルコ等の糖尿病薬を服用されている方は検査前後2日間(検査日含めて5日間)の休薬をお願いいたします。

画像データは当日、患者様にお渡しいたします。

所見は出来る限り当日にFAXさせていただきます。

所見原本は翌日に郵送させていただきます。

撮影当日、当院の放射線科井上医師宛ての紹介状と保険証を持参いただき、初診受付にお越しください。(当院の診察券をお持ちでしたら持参ください。)

撮影依頼書(当院ホームページからダウンロードできます)、紹介状を下記にFAXして頂きますと検査をスムーズに進めることが出来ます。

東近江総合医療センター 放射線科 FAX 0748-22-6011

医療機関のご紹介



東近江市猪子町 430

おだわら医院 内科・小児科・循環器科

おだわら医院について

おだわら医院院長（東近江医師会会長）

小田原 健一

当医院は父、小田原健が大学時代の出張病院が現在の能登川病院だった御縁で、昭和32年に現在地（当時神崎郡能登川町猪子）に内科、小児科の小田原医院として開業したのが始まりです。私は久留米大学第3内科に9年間所属し循環器内科を専攻しました。

昭和59年より9年間滋賀県立成人病センター救急部に在職し平成5年より父の開業を手伝い、平成13年に2代目院長を引き継ぎました。

現在当院は内科、小児科、循環器科で午前9時から12時までの午前診のみですが、当日朝8時半から電話予約をしており、患者さんの待ち時間を少なくするようにしています。昼からは産業医活動や、医師会会議、行政との会議などで忙しく午後診はしておりませんが、往診や、看取りも要請があれば引き受けておりますので、御希望の方はご連絡ください。

当院は県の道路拡張工事のため平成28年にリフォームを行い、それに伴い医院名を『小田原医院』から『おだわら医院』に改名致しました。当院での検査は胸部 X 線検査や胃透視、心電図、負荷心電図、心エコー、腹部エコーなどです。さらに詳しい検査は近隣の病院に紹介しております。



東近江市五個荘山本町 83

小串医院 内科・外科・小児科・放射線科

厚い雲の上には太陽がある

小串医院 小串 輝男

栄枯盛衰という言葉がある。東近江総合医療センター（総医）のそれを小生は身をもって知ってきた。枯れた時は小生はこの地の医師会長だった。井上院長はこの時期を少人数で身を削る努力をされ、何とか持ちこたえて来られた。

良い時期に医療再生基金の発行があり、頻回に滋賀医大（医大）の先生方と協議を重ねた。小生が皆さんと多職種連携を図るために始めた、『三方よし研究会』が軌道に乗っていたこともあり、それに注目してくれていた医大の先生方との話し合いは、井上院長や事務方の努力もありスムーズに進んだ。結果、今や総医は隆盛の時にある。二教授も来られ、医師の数も倍増、三倍増し、医大の第二附属病院としての機能を十分に発揮してくれている。

井上院長は、絶対救急患者は断るなどの方針を示しておられる。1～2か月間隔で休日急患診療所の勤務をするが、救急車の搬送が引きを切らない。隔世の感を覚える。この隆盛を壊してはならない。それはこの地区の、東近江市民の義務だ。



小串 輝男先生 と 医療法人社団 小串医院 のご紹介

小串医院 小串輝男理事長は昭和20年生まれの現在72歳です。京都大学医学部をご卒業後、京大医学部附属病院、米国ハーバード大学医学部留学、福井医科大学助教授を経て、平成3年に小串医院副院長にご就任後、院長職を経られて、平成12年間から医療法人社団小串医院理事長。現役でご活躍されている地域の患者さまの診療と医院の経営のほか、医師会活動では、旧八日市医師会副会長、東近江医師会会長を平成22年まで14年間歴任されました。

現在も、滋賀県医師会代議員会議長、日本医師会代議員として、医師会活動にご活躍・ご貢献いただいています。その間、厚生労働大臣表彰、滋賀県知事表彰、第2回日本医師会赤ひげ大賞など多くの表彰を受賞されておられます。

平成19年に小串先生が中心になられて始まった多職種連携のネットワーク「NPO 法人三方よし研究会」は、昨年で10年目を迎え、地域全体の医療・福祉介護・行政など、多くの職種の方々を集めて、地域の住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる町づくりを目指しております。添付の随筆にもありますように、当センターとのかかわりは深く、外来受診や入院に関しては斡旋をさせていただきますので、気軽に相談していただきたいと思います。

編集後記

今回から、情報共有ということで、当院と地域の先生方の双方から原稿をいただきました。お互いに紹介しあうのに、役立てばと願っています。今回は、当院の再建にあたりたいへんご尽力下さいました小串先生と、現東近江医師会長の小田原先生に原稿を依頼いたしました。次回も地域の先生方をお願いすると思いますが、特色をご宣伝下さいますようお願いいたします。（広報委員会委員長）